

球技における「できるかも」を目指した授業づくり

～自己調整学習に着目して～

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

片岡 陸

文部科学省は、現代の教育において「主体的・対話的で深い学び」を重視している。子どもたちが自分で課題を見つけ、解決に向けて協働して学ぶことが求められている。そこで、本研究では、体育の授業において、自分で課題を設定し、解決に向けて取り組むことを目指す自己調整学習に着目した。Game Senseに基づき、ゲーム中心の学習と自己調整学習が運動有能感に与える影響について明らかにすることを目的とした。

対象は公立中学校第2学年の2学級（50名）であった。教材はハンドボールを用いた。手立てとしては、①Game Senseの考え方を踏まえたコート大きさ・用具・ルールなどの工夫、②ゲーム中心の授業、③自己調整学習のサイクルを促す学習カードの作成を行なった。こうした手立てによって運動有能感の因子の中の身体的有能さに高まりがあることが示唆された。これからの授業においてもこうした授業づくりを目指して検討していく次第である。